

下町河川 Tomorrow

東京都の江東内部河川流域連絡会の情報紙（会議録）

平成28年11月30日（水）

第57回（第9期第1回）江東内部河川流域連絡会を開催



会議の様子

- ・「第57回（第9期第1回）江東内部河川流域連絡会」を、午後2時から午後4時30分の約2時間30分、小松川区民館 集会室第2・3にて開催しました。
- ・都民委員16名、行政委員11名が参加しました。
⇒ 名簿は6ページ
- ・設置要綱等の説明、各委員の自己紹介の後、座長の選出が行われました。そして、江東内部河川の整備事業について、映像や資料を用いた説明の後、行政・都民委員からの情報提供が行われました。その後意見交換を行いました。

議題及び情報提供

1. 江東内部河川の整備について

(1) 「川のまち 江東内部河川をゆく」PRビデオ

- ・江東治水事務所が作成した「川のまち江東内部河川をゆく」という江東内部河川の11河川の紹介したビデオと、「生まれ変わる江東内部河川」という江東内部河川の整備の歴史を描いたビデオを見ました。



(2) 江東内部河川整備事業について

- ・事務局より、現在実施している江東内部河川整備事業について説明がありました。
- ・北十間川では、地盤沈下により嵩上げしたことで地震に対し極めて脆弱となった護岸の再整備と、それに伴う散策路の整備を行っていきます。
- ・横十間川では、低水路の整備と修景工事を行っていきます。
- ・竪川では耐震護岸整備によって、通路が設けられ河川への導線が可能になります。
- ・隅田川では、東日本大震災を受け、最大級の地震が発生した場合にも河川施設が機能を維持し、被災等による浸水を防止する耐震対策事業を進めています。

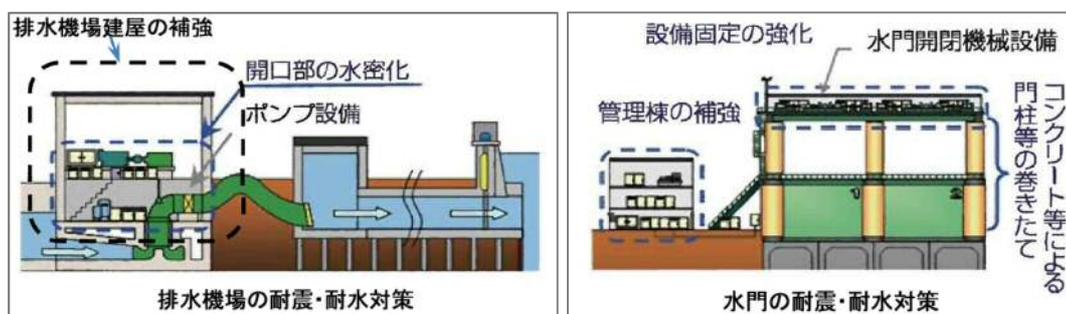


2. 「江東内部河川整備計画」の変更について

・江東内部河川整備計画は平成17年に策定していますが、今回改正しています。

【改正点】

- ①将来にわたって考えられる最大級の強さを持つ地震に対して、堤防、水門、排水機場、樋門・閘門及び水門管理センターの機能を保持し、津波等による浸水を防ぐために、耐震・耐水機能を確保していきます。(下図参照)



- ②江東内部河川、隅田川を含めて、水辺の賑わいを創り出していきます。



テラスの連続化イメージ (横十間川)



公園と一体化した水辺整備イメージ

【意見交換】

◆都民委員 ◇行政委員

- ◆北十間川と旧中川の合流点付近にて、旧中川河川敷から墨田区側に移動しやすくなるよう、橋をかけることはできないか。
- ◇河川管理者が橋を掛ける場合には防災の観点で実施しています。通常は道路管理者等が掛けています。同様のご意見は他の支川の箇所でもお伺いしていますので、今後とも検討課題としていきたいと思えます。
- ◆河川整備計画の「最大級の地震」とはどのレベルなのか。
- ◇震度7や既往最大の地震、想定される東京湾北部地震(M7.3)等がおきても耐えられるようにと考えています。
- ◆地震が来て堤防が崩れれば津波などで水が溢れる。排水機場や水門の耐水性が良くても、市の中に水が溢れば送電は止まる。非常電源は用意されているのか。
- ◇非常電源用に72時間、3日分の燃料を各施設で蓄えています。
- ◆水位の表記でA.P.とは何か。
- ◇A.P.は明治時代に設置した壺岸島量水標(現在の中央区新川二丁目地先にある海面の高さを測る水位標)の零位を基準面としたものです。大潮の際の平均干潮位はA.P.+0.0m、平均満潮位はA.P.+2.1mとされます。

3. 都民委員・行政委員からの情報提供

・都民委員及び行政委員より、次のような情報提供がありました。

(1) 水辺のギャラリー掲示版復活計画（提案）

・旧中川水辺公園では、水辺のウォーキングコース 2500m の区間 500m 毎に目印がある。そこで、500m 毎にお知らせ板を兼ねた絵画等の掲示版の増設（一部移設）を提案する。掲示版の復活整備は、旧中川のスポーツ（ジョギング等）とアートと歴史がコラボする水辺の時空間をさらに広げてくれると思う。



(2) 江東区カヌーマラソン 2017

・来年の2月5日（日）、旧中川・北十間川・横十間川・小名木川を周回する合計 10km のカヌーマラソン競技を開催する。2017 年は2回目の開催となる。江東区内では地区毎にカヌークラブを設立させている。大島、亀戸、黒船橋、豊洲とクラブができた。今後、砂村に誕生する予定である。



(3) 旧中川を対象とした卒業研究

・卒業研究で、旧中川の利用実態の観察と住民意識調査により、水辺空間利用の傾向や問題点を明らかにする「都市の中小河川における水辺空間利用に関する研究」を行った。

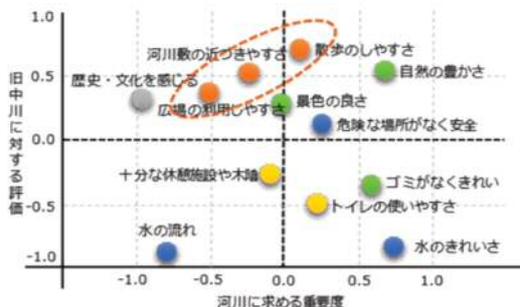


図4 河川に求める重要度に対する旧中川の評価

・人々は、安全性や水のきれいさだけではなく、自然の豊かさや散歩・河川敷・広場等の利用がしやすい水辺空間を求めていることがわかった。また、イベントは来訪者が水辺空間の良さを再認識するきっかけとなる。さらに、水上アクティビティを誘引する設備や河川敷に入りやすいアプローチが日常アクティビティを増やす。

・空間整備（ハード）とイベント（ソフト）を相互に組み合わせて進めていく事で、水辺空間の活用を促進する事ができると考えられる。

(4) リバーフェスタ江東 2017

・来年の3月19～20日（日・祝）、旧中川・川の駅にて、「リバーフェスタ江東 2017 ここは水辺ゆうえんち」を開催する。

・水陸両用バスの運航、カヌーや和船、ディンギー、太鼓指導などを行う。

・去年は江戸川区にもご協力いただいた。来年は墨田区とも一緒



にイベントができるようになると良い。

4. ご意見・感想等

◆都民委員 ◇行政委員

- ◆横十間川親水公園で和船を操船している。公園内に「野鳥の島」という中洲があり、できればそのあたりまで和船を運航したい。野鳥の産卵・営巣等の時期を避けて、運航することはできないだろうか。
- ◇旧中川のカワセミ護岸でも観光船の運航で同じような課題が出ています。船の利用と野鳥観察者が共存しながらお互いが楽しめる取り組みが必要だと思います。
- ◆和船は親水公園内だけで運航しているが、イベント時は河川でも運航する。その際はレッカーで吊ってトレーラーで移動する。クローバー橋付近で船を川へ出せるスロープができればと思う。
- ◆扇橋閘門の工事はいつからはじまるのか。1年かけてカヌー等のイベント計画を考えるため、早めの情報提供をお願いしたい。
- ◇今年度から工事を始めて、31年度までに工事を終わらせたいと考えています。見学は来年の4月で終了します。4月以降大型工事がはじまり、9月半ばには通船も停止することとなると想定しています。
- ◆扇橋閘門や管理棟を整備し直すならば、敷地全体を観光的に使えるような工夫はできないものか。
- ◇扇橋閘門の再整備では、見学者用施設や公園的機能、散策路等の設置を考えています。



扇橋閘門

流域連絡会の今後の予定

次回は、3月頃、現地見学を予定しています。